

翻訳にあたってのヒント

その 59

人名（地名）の翻訳について

日本語の人名や地名の漢字による表記とその読みにあたっては、極めて厄介な状況に遭遇することが多々ある。珍名・奇名を含め、国語辞書はおろか、漢和辞典にさえ掲載されていないものが多数あるからである。

過去に「斎藤 敕」という人名が出てくる翻訳物を英訳したことがあるが、この名前である「敕」の読みを調べるのに随分手間取ったことを覚えている。

まず、調べ上げた結果、その考えられる読みとして「おさむ、すすむ、ただし、ただす」が見つかったが、いったいどれを選んでいいか分からないという事態が発生した。このような読みが難しい人名は、客先や翻訳会社などがこちらが翻訳にかかる前に調べたうえ、ふりがなでもふってこちらに予め連絡しておくのが最適な方法だと思うのだが、そういったことがなされずに、いきなり翻訳してくれと頼まれてもこちらとしては 100% 正確に訳出することは不可能であると申し上げたい。無論、翻訳前や翻訳完了後に、訳者コメントで上述したような 4 つの読み方があると一覧表記することも可能だが、翻訳する立場としては余計な時間と労力を費やすので効率が悪いことこのうえない。

また、逆にこれが英文和訳で「Tadashi Saito」と書かれている場合は、「ただし」の名前だけで「敕、正、忠、匡、雅、征、貞、直、喬、忠士、忠志、忠司、征志、征士、征司、唯士、唯志、唯司、唯史、匡士、匡志、匡司、匡史」などがあり、「さいとう」の姓にも「齋藤、齊藤、斎藤、齊藤、齊藤」といった漢字が使われているから、同じような困った事態に遭遇することになる。

人名や地名の表記は重要だ。というのは、何も調べずただ闇雲に間違った表記で和訳あるいは英訳してしまうと、その本人・場所とは別人・別の地名（実在すれば）を記述したことになるばかりか、結果的に情報交換に齟齬をきたすことにもなってしまうからである。

参考までに、以下に「敕」とその読みに関連する人名の一部を列挙してみた。

- ▼ 敕（おさむ、すすむ、ただし、ただす）、敕夫（ただお）、正敕（まさつぐ）、富敕（とみとき）； 敕使河原（てしがわら [姓]）
- ▼ おさむ： 治、修、理、紀、攻、宰、治虫、耕、靖、收、長武、敦、司など
- ▼ すすむ： 進、晋、享、奨、将、達、勸、進武、勉、邁、亨、敏、奏、献、勤など
- ▼ ただし： 正、忠、匡、雅、征、貞、直、喬、忠士、忠志、忠司、征志、征士、征司、唯士、唯志、唯司、唯史、匡士、匡志、匡司、匡史など
- ▼ ただお： 忠夫、忠雄、忠男、忠生、忠郎、唯夫、唯雄、唯男、唯生、唯郎、允夫、格雄、紀男、糾夫、匡生、匡男、匡夫、正生、正男、正夫、正雄、規夫、賢男、賢夫、資

夫、資雄、淳男、淳雄、宰男、祥雄、祥男、雄夫、維生、維夫、維雄、維男、惟男、惟夫、惟雄など。

▼ まさつぐ： 真次、真継、真嗣、政次、政継、政嗣、正次、正継、正嗣、雅紹、雅継、雅嗣、雅次、勝嗣、将嗣、将継、将次、昌継、征次など。

以上これにて、第 59 回目終了。